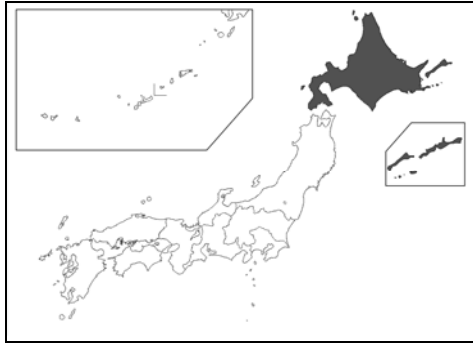


3 地域別の動向

(1) 北海道



北海道地域では、景気は持ち直している。

- ・ 鉱工業生産は持ち直している。
- ・ 個人消費は持ち直している。
- ・ 雇用情勢は厳しい状況にあるものの、改善している。

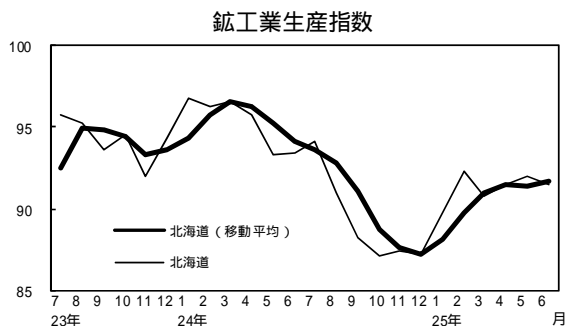
(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(〃は上方に変更、〃は下方に変更)

前回調査からの主要変更点

	前回(平成25年5月)	今回(平成25年8月)	
景況判断	緩やかに持ち直し	持ち直し	
鉱工業生産	緩やかに持ち直し	持ち直し	
観光	緩やかな増加傾向	緩やかに増加	
住宅	大幅に増加	増加	
雇用情勢	改善の動き	改善	

1. 生産及び企業動向

- (1) 第一次産業は、生乳生産は前年を上回り、水産物の水揚量は前年を下回っている。
4～6月期には、生乳生産は、牛乳等向け等が減少したため、総量では1,004,386tと前年比0.8%増となった。水産物の水揚量(主要8港)は、ほっけ、するめいか等が減少したため、前年比27.8%減となった。
- (2) 鉱工業生産は、持ち直している。
4～6月期には、食料品は、5月の低気温により清涼飲料やビールの生産が低調だったことが寄与し減少した。パルプ・紙は、定期修理と生産ラインのトラブルにより減少した。鉄鋼は、中国向けの建設機械や自動車向けの特殊鋼棒鋼の生産が伸びたこと等から増加した。電気機械は、スマートフォンや携帯電話向けの無線通信装置の生産が低調だったこと等から減少した。金属製品は、好調な民間建設工事を背景にアルミニウム建具の生産が伸びたことから増加した。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		1～3 月期	4～6 月期	4月	5月	6月
食料品	23.9	0.2	0.8	0.4	0.9	0.2
パルプ・紙	10.7	0.4	0.2	5.8	6.9	7.0
鉄鋼	8.6	30.2	1.9	2.5	0.6	1.3
電気機械	8.4	1.7	3.8	12.3	6.9	2.0
金属製品	8.0	17.1	28.4	40.7	7.5	12.0
鉱工業	100.0	4.4	0.8	0.8	0.5	0.5

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

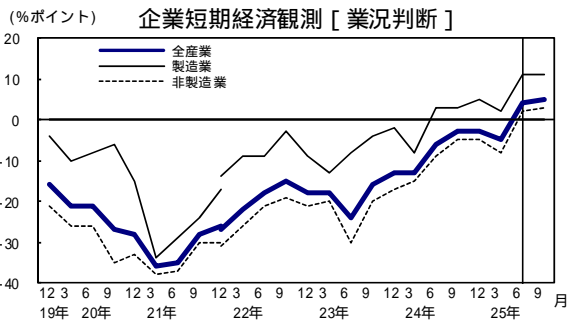
2. 4～6月期、6月は速報値。

(備考) 1. 17年=100、季節調整値、最新月は速報値。

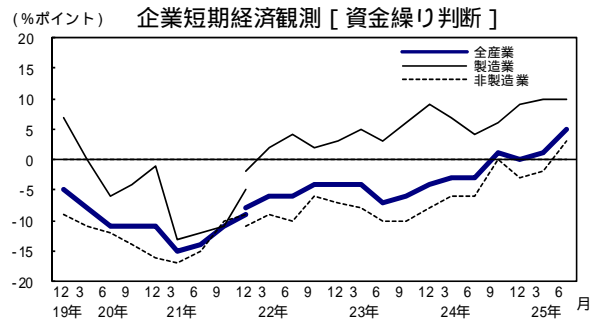
2. 太線は後方3か月移動平均。

(3) 企業動向の業況判断は「良い」超に転じ、資金繰り判断は「楽である」超幅が拡大している。

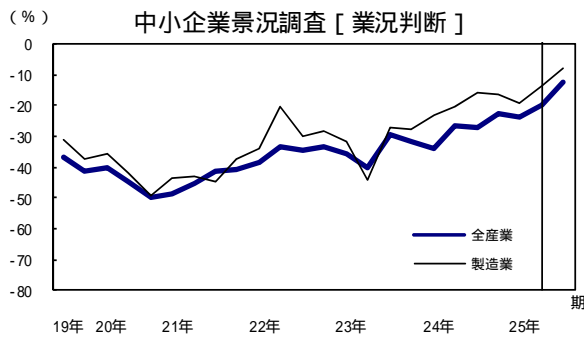
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。25年9月は予測。21年12月は新・旧基準を併記。



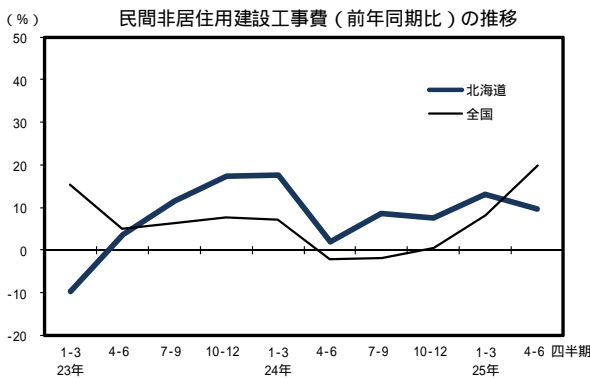
(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。21年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。25年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(7月)[企業動向関連(現状)]
「メーカーへの発注が多くなり、先々の需要が供給を上回ることを懸念する話が久しぶりに出てきた(輸送業)」などの回答がみられた。

(4) 設備投資の民間非居住用建設工事は増加している。

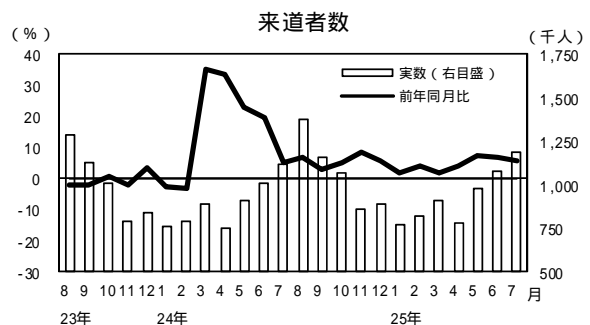


企業短期経済観測調査 [設備投資(6月調査)]

	(前年度比、%)	
	24年度実績	25年度概
全産業	20.1 (0.7)	3.6 (1.5)
製造業	62.4 (3.1)	1.7 (3.0)
非製造業	3.5 (4.4)	8.6 (0.2)

(備考) 1.()は前回(3月)調査比修正率。電気・ガスを除く。
2. リース会計対応ベース。

(5) 観光は、緩やかに増加している。
来道者数は、3月末と4月末に新千歳空港に就航した格安航空会社の影響により、中国・四国地域からの来道者が増加している他、関東地方のテーマパークのイベントがけん引役となり増加した。



(備考) 北海道観光振興機構調べ。

(1) 北海道

2. 需要の動向

(1) 個人消費は、持ち直している。

地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

4月は前月比0.3%増、5月は同0.2%減、6月は同0.2%減となった。

大型小売店販売額

百貨店は、4月は、気温が伸び悩み春物衣料の売上が低調だったこと等から前年を下回った。

5月は、時計や宝飾品といった高額品の売上が好調だったこと等から前年を上回った。6月

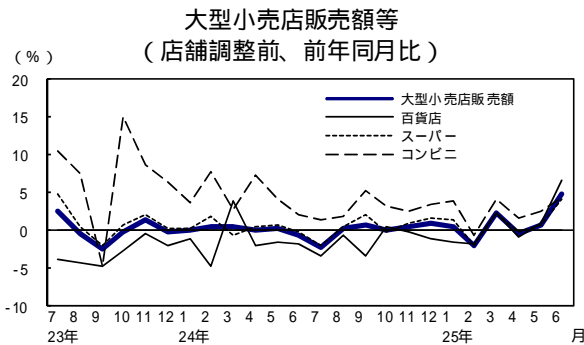
は、気温が高く夏物衣料の売上が好調だったことやセールの前倒し効果がみられたこと等から前年を上回った。

スーパーは、気温上昇に伴い季節商材の売上が伸びたこと等から前年を上回った。

景気ウォッチャー調査 (7月) [家計動向関連 (現状)]

北海道地域の家計動向関連DIは、56.9となり前月より1.7ポイント低下した。

「今月に関しては、参議院選挙があったため、人の動きが相当悪く、売上も前年の6割であった(商店街)」など、「やや悪くなっている」とする回答が増加した。

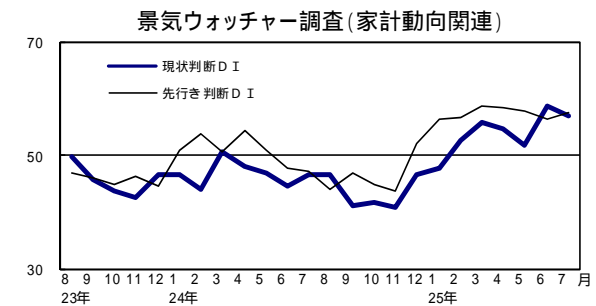
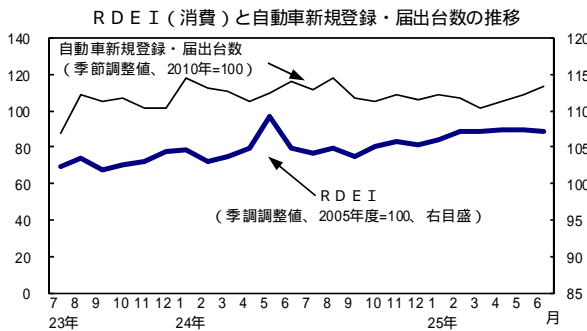


	25年4-6月	25年4月	5月	6月
RDEI (消費*1)	0.5	0.3	0.2	0.2
大型小売店(*2)	1.6	0.5	0.8	4.7
百貨店(*2)	2.2	0.9	0.9	6.7
スーパー(*2)	1.5	0.3	0.7	4.2
コンビニ(*2)	2.9	1.7	2.6	4.4
乗用車(*3)	1.0	1.7	0.7	3.4
(季節調整値)(*3)	3.0	3.5	3.1	4.4

(備考) 1. 季節調整済前期(月)比 (%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

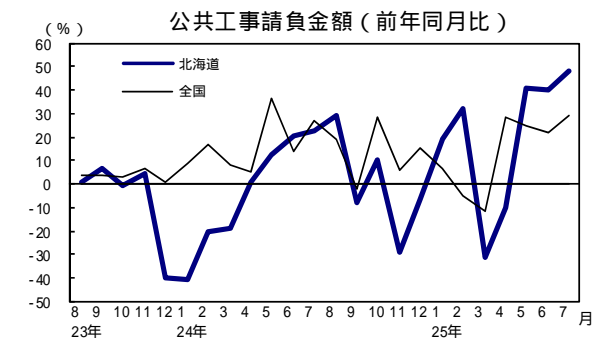
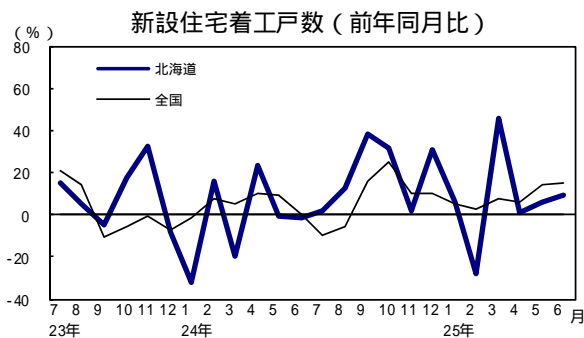
3. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比 (%))



(2) 住宅建設は増加している。

分譲が前年を下回ったものの、持家、貸家が前年を上回ったことから、全体では増加している。

(3) 公共投資は25年度累計で見ると前年度を上回っている。

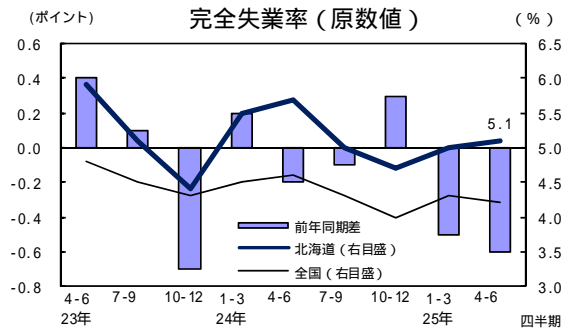
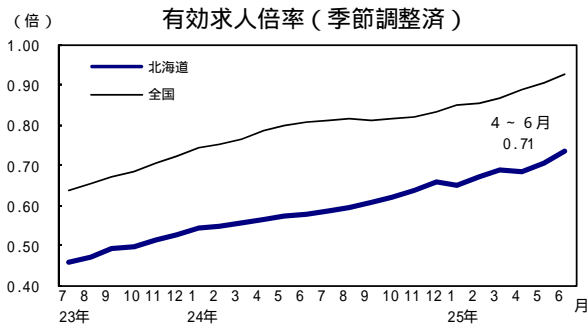


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は厳しい状況にあるものの、改善している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査 (7月) [雇用関連 (現状)]

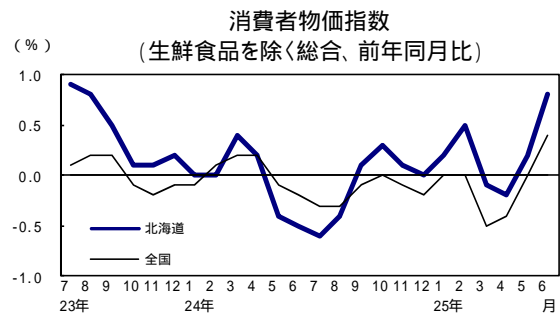
「建築、建設業や介護業界を筆頭に、全業種で求人広告数が前年よりも増加している (求人情報誌製作会社)」などの回答がみられた。

(2) 企業倒産は、件数は減少し、負債総額は大幅に増加している。

(3) 消費者物価指数はおおむね横ばいとなっている。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	24年7-9月	10-12月	25年1-3月	4-6月	25年7月
倒産件数	108	90	110	96	27
(前年比)	3.8	11.8	18.5	22.6	18.2
負債総額	145	216	343	5,284	551
(前年比)	49.6	49.6	41.4	1913.3	6.2



景気ウォッチャー調査 (7月) [合計 (特徴的な判断理由)]

<現状>

・引き続き台湾等の東南アジアからの外国人観光客が堅調に推移している。国内観光客も個人客を中心に回復傾向にあり、全体として宿泊客数は回復傾向にある (観光型ホテル)。

<先行き>

・石油製品の値上がりで家計も企業も経費が先に増加しているが、何と云っても現政権の経済対策に対する強い期待感が消費を押し上げている (一般小売店 [土産])。

景気ウォッチャー調査

(合計：家計動向関連+企業動向関連+雇用関連)

